

法教育入門授業 学習指導案

1 活動名 「みんなのことをみんなで決める—ごみ収集場所をどこにする?—」

2 活動目標

- 公共的な事項について、多様な利害を調整しながら決定することを学ぶとともに、その決定をみんなで守る大切さを理解する。

3 評価について

法的な考え方について	<ul style="list-style-type: none">・ ものごとを決定する場合には、それに関して多様な利害があることに気づき、お互いの意見を十分に聞き合い、相互の立場にたって考えることが大切であることを理解する。・ みんなで決めたルールを守ることの大切さを理解する。
------------	--

4 法教育の授業について

法教育は、「自分たちの身の回りで起こる様々な問題について、主体的に考え、公正に判断し、行動する力を身につける教育」である。また、学習の場面においては、「多様な考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、社会を積極的に形成することのできる力」である人間関係・社会形成能力を培うものである。

法教育の授業を通して、一人ひとりがかけがえのない存在であり、一人一人を大切にするために、異なる意見や考え方・感じ方を認め合い、利害が対立することを適切に受け止めることを理解することが大切である。そして、法とは「異なる価値観や利害を持つ人々が上手に共存していくためのもの」であると考え、権利には義務と責任が伴い、役割を果たすことの大切さを理解することが大切である。またその考え方は、権利義務や、公正公平、合理性を一面的に○×で判断するのではなく、多面的な理解とともに、「おもいやり」や「配慮」も大切な要素の一つであることに気づくこともねらいとしている。

本授業においては、ごみを処理し、家や店の前がきれいで快適になることは、みんなの利益になることであるが、その一方で、ごみ収集場所となる家または店にとっては、門前にごみが積み上げられ、場合によっては散らかったりして迷惑になることを理解し、その上で誰がどのような形で負担を受け入れることが適切であるかを考えるものである。

話し合い活動では、6人グループのそれぞれが町内会の個人の役になり、どこにごみ収集場所を設定するか話し合うようにする。ものごとの決定を行う場合には、それに関連してお互いの利害関係があり、考え方が違う。そのことを理解することだけでなく、ごみ収集場所の決定に関して、「ごみの量」「足の悪い老夫婦への配慮」「商店の営業時間」「会合へ欠席している人達への配慮」「収集場にする場合への考慮すべき点」「場所や時間以外に決めなければならないこと」などについて話し合い、自分たちでルールを決め、そのルールを守ることの大切さについて考えさせ、ルールを守る意味を理解させたい。

5 指導計画

(全 2 時間)

時	学習活動	学習活動における 評価規準（評価方法）	法教育の視点
1	<p>○町内会で話合われる経緯と、それぞれの立場について知り、話合いの準備をする。</p> <p>・ある町内会の構成を知り、議題となる現状の理解をする。</p> <p>・自分の役を知り、自分（役）にとって一番適切だと思う案を考える。</p>	<p>・場面と役を理解し、適切な方法について考えることができる。</p> <p>（ワークシート）</p>	<p>・自分の立場を理解し、考えを伝える準備をすることができる。</p> <p>・多面的な理解を促すために、役割は指導者が指定する。</p>
2	<p>○みんなの利益のために、多様な利害を調整しながら決定する方法を学ぶとともに、その決定をみんなで守る大切さを理解する。</p> <p>・論議する問題を理解し、グループで話合う。</p> <p>・結論を交流し、論点を整理して、考えるべき点を深め合う。</p>	<p>・みんなの利益のために、多様な利害を調整しながら決定する方法を考えようとする。</p> <p>（観察・発言）</p>	<p>・ルールを決定するための大切な点や配慮事項に気づき、決定したルールをみんなで守る大切さを理解する。</p>

6 第 2 時の目標

- みんなの利益のために、多様な利害を調整しながら決定する方法を学ぶとともに、その決定をみんなで守る大切さを理解する。

※第 1 時は、別添資料を使用し、話合いの準備をすすめるようにする。第 2 時の話合いの時間を確保するための時間であるので、45 分である必要はない。ただし、状況、自分の立場・意見、話合いのポイントを十分に理解しないと、第 2 時の模擬町内会の話合いが活発に行われないことになる。仕込みの時間として有効に活用したい。

7 第2時の展開

学習活動	働きかけと予想される 児童の反応	○留意点 ☆法教育の視点 からの支援	評価の視点
1 学習のめあてと流れを確かめる。 ・めあて	○1時間の学習の流れを示す。 ・流れがわかる。	○本時のめあてを確かめることで、学習の課題を明確にもてるようにする。	
みんなのことをみんなで決めよう			
・流れの確認 ①はじめに ②問題の理解 ③町内会魏 ④結論の交流 ⑤考えを深める ⑥まとめ			
2 議論する問題を把握する。 ○収集場所 ○現状 ○論点 ○参加者	○議論する問題を説明し、整理する。	○ワークシートを使い説明する。 ☆話合いの視点を示す。	
3 町内会グループごとに「ごみ収集場所」をどこにするか議論する。 ○役割 ○進行 ○結論	○「役柄に応じて、お互いの意見を十分に聞き合い、結論をめざしましょう。」 ・場所と理由を出し合う ・互いの意見への反応 ・配慮事項の設定 ・現状の共通理解	☆結論を1つに絞らなくてもよい。 ☆利害が異なることを理解する。 ☆配慮事項に気づく。	みんなの利益のために、多様な利害を調整しながら決定する方法を学ぶ。 (行動・観察)
4 町内会長からグループの結論を発表する。 ○理由と結論	○「結論と理由を発表しましょう。」 ・結論は○○です。 ・この点がまとまりませんでした。	○1つにしぼりきれなかったり、結論がでなかった場合も、その理由も説明する。	
5 結論をもとに論点を整理し、考えるべき点を深める。 ○配慮 ○ルールづくり	・ごみの量 ・足の悪い老夫婦への配慮 ・店の営業時間について ・店の種類 ・欠席している人の扱い ・順番制の留意点 ・その他ルール…など	○結論と説明をもとに論点を整理する。 ☆ルールづくりで大切にすべきポイントを示す。	みんなの決定をみんなで守る大切さを理解する。 (行動・観察)
6 まとめ	○本時の感想を交流する。 ・異なる意見を聞きながら、話合うことの大切さを知った。 ・みんなで決めたルールは守ることが大切だ。		

8 資料 ワークシート

みんなのことをみんなで決めるーごみ収集場所をどこにする？ー

名前（ ）

1. 自分の担当（役割と考えなくてはいけない点）

2. ごみ収集場所（場所とその理由）



3. 話し合いメモ（自分の意見・他の人の意見）

4. 決まったこと（場所と理由）

5. 感想



9 法教育授業のポイント（法教育の授業をすすめるにあたって）

（１）法教育のとらえ方

法教育とは、「きまり」や「ルール」を示し、それに従う遵法意識のみを指導するものではない、また、ある特定の「道徳的価値」を理解することや、「集団」に属するためのルールづくりの話合い活動を法教育の授業に置き換えるものでもない。

「法教育授業」とは、意見が異なる場面、利害が対立する場面、問題が複雑な場面など多様な意見や価値が交錯し、判断が難しい場面の中で、「法」や「きまり」を「合意」を結ぶための「道具」として、「活用」し、徹底した話合い活動を行うことで児童自身の「法」や「きまり」に対する意識を高め、「法教育」の求める「主体的に考え、公正に判断し、行動する力」を育むものである。

（２）多様な利害関係を意図的に設定定する

多様な利害関係を意図的に設定することで、ものごとを決める時には、自分の損と得、他者の損と得が存在し、そのことを理解した上で、どのように調整し、合意するのか話合うことが重要であることに気づくことができる。

様々な利害関係を一つずつ整理する過程で、ある選択や行為、ルールの決定に対して、だれがどれくらいどのように得をし、逆に、不利益を被るのか、そのことを話合いの中でどのように「理解」されているのか、そして、「合意」することができるのかといった法教育の視点をもった話合いが可能になる。

利害関係がある、対立関係にあるということを認めて、話合いを行うことは、小学校ではほとんど取組まれていなかった、あるいは、意図的に避けてきた部分であるが、この点に正面から取り組むことが「法教育」の授業だと考える。利害関係や対立関係にふたをして、理解も合意もないままに中途半端な「賛成」だけを募るような話合いでは、子どもたちの育ちは期待できない。

（３）理解と合意の違いを知る

小学校の法教育の授業の大きなポイントは、話合い活動における「理解」と「合意」の違いを知ることである。相手の立場や主張を「理解」することと、「ものごと」を「合意」とすることとはまったく別のものであり、「合意」にむかう話合い活動を徹底して行うことが大切である。

相手の立場が理解できたから、「合意」できたのではない。このことが小学校の話合い活動では、わかりにくかった。相手の立場や価値観、考え方が「理解」できるからこそ、整理された一つ一つの問題について「合意」を結ぶための話合いを行うことができる。

この「理解」と「合意」の混同は、利害関係の対立を避けてきた小学校の話合い活動の中で大きな課題である。